

もくじ

P4 ご と ば じょう こう  
**後鳥羽上皇**

VS

ほう じょう まさ こ  
**北条政子** P5

P6 あ し か が た か う じ  
**足利尊氏**

VS

く す の き ま さ し げ  
**楠木正成** P7

P8 ほ そ か わ か つ も と  
**細川勝元**

VS

や ま な そ う ぜん  
**山名宗全** P9

P10 た け だ し ん げ ん  
**武田信玄**  
た け だ は る の ぶ  
(武田晴信)

VS

う え す ぎ け ん し ん  
**上杉謙信** P11  
う え す ぎ て る と ら  
(上杉輝虎)

P12 と く が わ い え や す  
**徳川家康**

VS

と よ と み ひ で よ し  
**豊臣秀吉** P13

P14 よ ど どの  
**淀殿**  
あ ざ い ち ゃ ち ゃ  
(浅井茶々)

VS

き た の ま ん ど こ ろ  
**北政所** P15  
ね ね  
(寧々)

歴史人物ライバル対決Q&A

か ま く ら  
鎌倉時代～え ど  
江戸時代

P16～P17

P18 こ う  
**お江**  
あ ざ い こ う  
(浅井江)

VS

か ず が の つ ぽ ね  
**春日局** P19  
さ い と う ふ く  
(斎藤福)

P20 と く が わ つ な よ し  
**徳川綱吉**

VS

み と こ う も ん  
**水戸黄門** P21  
と く が わ み つ くに  
(徳川光圀)

P22 ま つ お ば し ょ う  
**松尾芭蕉**

VS

い は ら さ い か く  
**井原西鶴** P23

P24 と く が わ よ し む ね  
**徳川吉宗**

VS

と く が わ む ね は る  
**徳川宗春** P25

P26 つ た や じ ゅ う ざ ぶ ろ う  
**蔦屋重三郎**

VS

ま つ だ い ら さ だ の ぶ  
**松平定信** P27

ぜん ね ん ぶ つ  
**禅と念仏**

日本人の思想に大きな影響を与えた新しい仏教とは？

P28～P29



# 後鳥羽上皇

文武両面に優れた  
上皇の秘めた劣等感

後鳥羽は水無瀬の地にお気に入りの離宮を持っていました。そこに彼と意見を同じくする貴族や鎌倉に反感を持つ武士を呼び、宴をおこなったといいます。有名な歌人藤原定家も招かれました。定家は日記に「上皇の宴はしばしば長くなり、家に帰りたいのに帰れない」とグチを書いています。また水泳が得意な後鳥羽は、身近に仕える者を誰彼問わず、川に投げ入れ、泳げない者を笑ったそうです。自分ができることは他人もできると思っていたのかもしれませんが。



鎌倉時代の天皇。息子に位を譲り、上皇となってから、鎌倉幕府の執権北条義時の追討命令を出します。これが承久の乱となります。後鳥羽は天皇時代から武芸に優れ、武士の技であった弓、騎馬、水泳などを好みました。和歌の才能にも恵まれ、勅撰和歌集を編纂し、自らが歌を選ぶ撰者になるほど熱心でした。才能に溢れ、朝廷内でもゆるぎない権力を持っていましたが、彼には秘かな劣等感があったといいます。それは、即位の際、三種の神器のうち「剣」がなかったこと。その剣は源平の争いで海に沈み、発見されなかったのです。後鳥羽は自らの才能を強く信じ、鎌倉幕府の権力をつぶすことを目標とします。

それは失われた剣を再び、自らの手に取り戻すことを意味していたのかもしれませんが。

# 北条政子

尼將軍と呼ばれた女性  
の真の強さ



母親としての政子の生涯は、悲しい出来事で溢れています。長女大姫の病死、頼家、実朝の暗殺は政子の心に暗い影を落としたことでしよう。現代人なら絶望してしまうかもしれませんが。鎌倉時代には、平安時代までと違う仏教が起ります。それは争いで手を血に染めた武士や、心ならずも殺生をしなければ生きていられない民衆の心の救いとなっています。政子も自らの髪で刺繍した経文を寺社に寄進して救いを求めたとされています。

鎌倉時代。源頼朝の妻、二代將軍頼家、三代將軍実朝の母。北条政子は頼朝の挙兵以来、一族北条氏とともに頼朝を支えました。北条氏を初めとする東国武将の協力を得た頼朝は、平氏を討伐し、鎌倉にはじめて武家の政権を打ち立てます。政子はただ妻として頼朝の隣に座っているだけの存在ではありませんでした。幕府を守るためには、個人の感情や家族の情愛よりも優先すべきことが多く、政治的なバランス感覚も必要でした。政子にはその才能があり、自分の感情よりも政治的な立場を常に優先しました。承久の乱では、東国武士たちの間にも動揺が広がりますが、政子の演説は多くの武士の心を動かし、乱は幕府側の勝利に終わります。それは政子の常日頃の行動が、武士たちの信頼を得ていたためではないでしょうか。



# あしかが たかうじ 足利尊氏

げん じ ちやくりゅう ほこ  
源氏嫡流の誇りを持つ  
ゆう もう ぶ しょう  
勇猛な武将

尊氏は度量が大きく、小さいことに拘らない人物だったそうです。自分の行動力に強い自信を持ち、大きな仕事を成し遂げることができる人物でした。その反面、思いがけない結果が出ると落ち込んでひきこもる等、心の弱い一面もあったようです。弟直義とは、お互いに足りない部分を補い合いながら、室町幕府の仕組みを作っていきます。後醍醐天皇への恩義を忘れず、後醍醐天皇の死後、天龍寺を開き、天皇の菩提を弔いました。



源氏の名門足利氏の出身。後に室町幕府の初代将軍。足利氏は勇猛な一族で、鎌倉幕府の御家人ですが、北条氏からも一目置かれる存在でした。鎌倉末期に幕府は形だけとなり、北条氏の独占政権となると、尊氏は秘かに反発心を募らせていったそうです。彼の心の中には常に源氏の名門としての誇りがあり、後醍醐天皇からの強い要請は、尊氏の心を動かします。尊氏は後醍醐天皇のために、鎌倉幕府滅亡に協力しますが、その後、政治方針の違いにより、後醍醐天皇と対立することになります。尊氏は何度か窮地に立たされますが、最終的に勝利したのは尊氏でした。弟直義との連携により、楠木正成を湊川で破った尊氏にはもう敵はいません。時代の流れを読んだ尊氏の勝利だったのです。

# くすの き まさ しげ 楠木正成

しんしゅつ き ぼつ  
神出鬼没  
あく どう よ てき ぶ しょう  
悪党と呼ばれた無敵の武将



足利尊氏との最終決戦前に、正成はもう一度、後醍醐天皇に勝つための戦略を話します。しかし却下されました。「では討ち死にしろと命令してください」と後醍醐天皇に言い残し、最終決戦に臨みました。再び権力者に属さない悪党に戻る道を選ぶこともできたはずですが、正成の心には分かりませんが、もしかしたら自分と並ぶ強さを持つと思われる、尊氏との真剣勝負がしたかったのかもしれない。

鎌倉時代末期から南北朝時代の武将。出自にはさまざまな説があります。正成はその強さから「悪党」と呼ばれていました。悪党とは権力者の指図を受けない武力集団という意味で犯罪者ではありません。正成の臨機応変な戦術は、無類の強さだったと語られています。正成は一時期、近畿地方での一大勢力となり、鎌倉幕府滅亡の大きな力となりました。後醍醐天皇は悪党楠木正成を味方に取り込むことで大きな武力を得ましたが、武士は公卿より身分が劣り、政治への口出しは無用と考えていました。尊氏と後醍醐の対立において、正成は尊氏の器量を惜しみ、和睦すべきと意見を奏上しますが、天皇と公卿たちは聞き入れません。正成は朝廷に失望し、尊氏との最終決戦に臨むことになります。